

1. 新学習指導要領について

(5) 何を学ぶか

—具体的な教育内容の改善・充実—

高等学校学習指導要領等の改訂のポイント ④

4. 教育内容の主な改善事項

言語能力の確実な育成

- ・科目の特性に応じた語彙の確実な習得、主張と論拠の関係や推論の仕方など、情報を的確に理解し効果的に表現する力の育成(国語)
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動(自らの考えを表現して議論すること、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめること など)の充実(総則、各教科等)

理数教育の充実

- ・理数を学ぶことの有用性の実感や理数への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視(数学、理科)するとともに、見通しをもった観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実(理科)などの充実により学習の質を向上
- ・必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育を充実(数学)
- ・将来、学術研究を通じた知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成を目指し、新たな探究的科目として、「理数探究基礎」及び「理数探究」を新設(理数)

伝統や文化に関する教育の充実

- ・我が国の言語文化に対する理解を深める学習の充実(国語「言語文化」「文学国語」「古典探究」)
- ・政治や経済、社会の変化との関係に着目した我が国の文化の特色(地理歴史)、我が国の先人の取組や知恵(公民)、武道の充実(保健体育)、和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実(家庭)

道徳教育の充実

- ・各学校において、校長のリーダーシップの下、道徳教育推進教師を中心に、全ての教師が協力して道徳教育を展開することを新たに規定(総則)
- ・公民の「公共」、「倫理」、特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であることを明記(総則)

外国語教育の充実

- ・統合的な言語活動を通して「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」の力をバランスよく育成するための科目(「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ」)や、発信力の強化に特化した科目を新設(「論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」)
- ・小・中・高等学校一貫した学びを重視して外国語能力の向上を図る目標を設定し、目的や場面、状況などに応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成

職業教育の充実

- ・就業体験等を通じた望ましい勤労観、職業観の育成(総則)、職業人に求められる倫理観に関する指導(職業教育に関する各専門教科)
 - ・地域や社会の発展を担う職業人を育成するため、社会や産業の変化の状況等を踏まえ、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応の視点から各教科の教育内容を改善
 - ・産業界で求められる人材を育成するため、「船舶工学」(工業)、「観光ビジネス」(商業)、「総合調理実習」(専門家庭)、「情報セキュリティ」(専門情報)、「メディアとサービス」(専門情報)を新設
- ※職業教育の充実に当たっては、必要な施設・設備の計画的な整備を促していく。

その他の重要事項

○初等中等教育の一貫した学びの充実

- ・必要な資質・能力を身に付けるため、中学校との円滑な接続や、高等学校卒業以降の教育や職業との円滑な接続について明記(総則)

○主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実

- ・政治参加と公正な世論の形成、政党政治や選挙、主権者としての政治参加の在り方についての考察(公民)、主体的なホームルーム活動、生徒会活動(特別活動)
- ・財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、職業選択、起業、雇用と労働問題、仕事と生活の調和と労働保護立法、金融を通じた経済活動の活性化、国連における持続可能な開発のための取組(公民)
- ・多様な契約、消費者の権利と責任、消費者保護の仕組み(公民、家庭)
- ・世界の自然災害や防災対策(地理歴史)、防災と安全・安心な社会の実現(公民)、安全・防災や環境に配慮した住生活の工夫(家庭)
- ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む)、生活支援に関する技能(家庭)
- ・オリンピックやパラリンピック等の国際大会は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること、共生社会の実現にも寄与していることなど、スポーツの意義や役割の理解(保健体育)、障害者理解・心のバリアフリーのための交流(総則、特別活動)
- ・我が国の領土等国土に関する指導の充実(地理歴史、公民)

その他の重要事項

○情報教育(プログラミング教育を含む)

- ・情報科の科目を再編し、全ての生徒が履修する「情報Ⅰ」を新設することにより、プログラミング、ネットワーク(情報セキュリティを含む。)やデータベース(データ活用)の基礎等の内容を必修化(情報)
- ・データサイエンス等に関する内容を大幅に充実(情報)
- ・コンピュータ等を活用した学習活動の充実(各教科等)

○部活動

- ・教育課程外の学校教育活動として教育課程との関連の留意、社会教育関係団体等との連携による持続可能な運営体制(総則)

○子供たちの発達の支援

(キャリア教育、障害に応じた指導、日本語の能力等に応じた指導、不登校等)

- ・社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることを明記(総則)
- ・通級による指導における個別の指導計画等の全員作成、各教科等における学習上の困難に応じた指導の工夫(総則、各教科等)
- ・日本語の習得に困難のある生徒への配慮や不登校の生徒への教育課程について新たに規定(総則)

高等学校学習指導要領等の改訂のポイント ⑤

5. 教科・科目構成の見直し

○ 高等学校において育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、教科・科目の構成を改善。

（国語科における科目の再編（「現代の国語」「言語文化」「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」）
地理歴史科における「歴史総合」「地理総合」の新設、公民科における「公共」の新設、共通教科「理数」の新設、など

6. その他

○ 保健体育科においては、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続したり、自他の健康課題を解決したりできるようにすることや、芸術科においては、生活や社会の中の芸術の働きや芸術文化と豊かに関わり、生涯にわたって芸術文化を愛好する心情をもてるようにすることを重視。

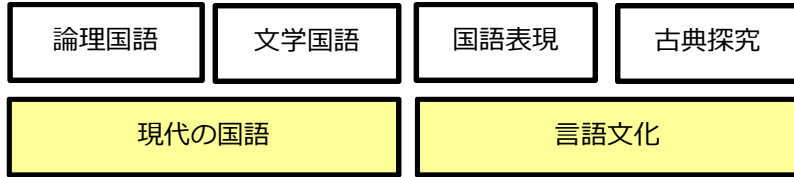
高等学校の教科・科目構成について

(各学科に共通する各教科及び総合的な探究の時間)

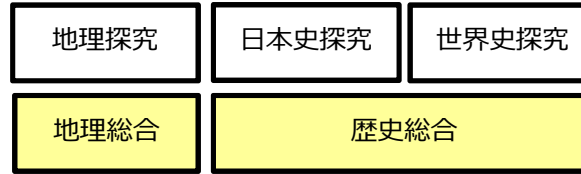
…共通必履修
…選択必履修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

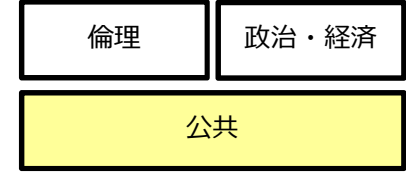
国語科



地理歴史科



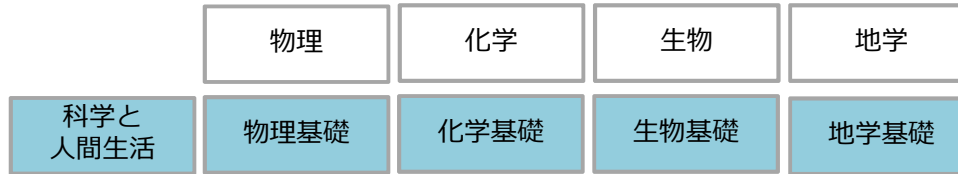
公民科



数学科



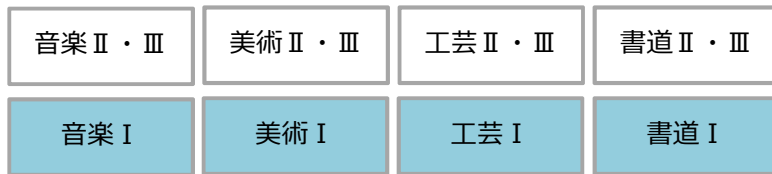
理科



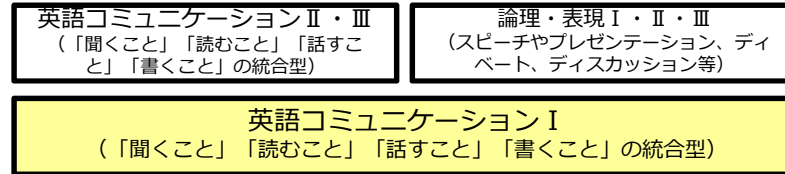
保健体育科



芸術科



外国語科

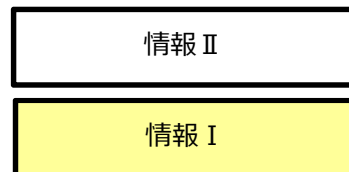


※英語力調査の結果やC E F Rのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

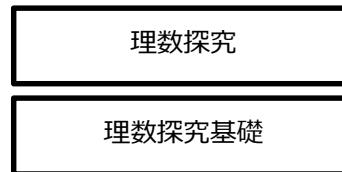
家庭科



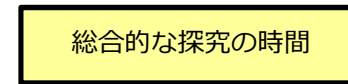
情報科



理数科



総合的な探究の時間



※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔 改 訂 〕

〔 現 行 〕

教科	科 目	標準 単位数	必履修科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	○
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現	4	
	古典探究	4	
地理 歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	○
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共	2	○
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	科学と人間生活	2	┌ 「科学と人間生活」を 含む2科目 又は 基礎を付した科目を 3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	

教科	科 目	標準 単位数	必履修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理 歴史	世界史A	2	┌ ○ ┌ ○ ┌ ┌
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」 又は 「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	┌ 「科学と人間生活」を 含む2科目 又は 基礎を付した科目を 3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
理科課題研究	1		

保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	
英語コミュニケーションⅡ		4	
英語コミュニケーションⅢ		4	
論理・表現Ⅰ		2	
論理・表現Ⅱ		2	
論理・表現Ⅲ		2	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
情報	情報Ⅰ	2	○
	情報Ⅱ	2	
理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2~5	
総合的な探究の時間		3~6	○2単位まで減可

保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	コミュニケーション英語基礎	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	
英語表現Ⅰ		2	
英語表現Ⅱ		4	
英語会話		2	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	○
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで減可

高等学校新学習指導要領 国語科の科目構成

※ () 内は標準単位数
【 】は領域名、単位時間数は指導時数を示す。

《現行学習指導要領》

国語総合
(4単位)

国語表現
(3単位)

現代文A
(2単位)

現代文B
(4単位)

古典A
(2単位)

古典B
(4単位)

課題

「話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていない。

古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらない。

共通必修履修科目

現代の国語(2単位)

○ 実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目

【知識及び技能】

- ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色
- ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句
- ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方
- ・主張と論拠など情報と情報との関係
- ・推論の仕方
- ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方 など

【思考力・判断力・表現力等】

- 【話すこと・聞くこと】20～30単位時間程度
- 【書くこと】30～40単位時間程度
- 【読むこと】10～20単位時間程度

言語文化(2単位)

○ 上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目

【知識及び技能】

- ・我が国の言語文化に特徴的な語句
- ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果
- ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係
- ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
- ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用 など

【思考力・判断力・表現力等】

- 【書くこと】5～10単位時間程度
- 【読むこと】(古典)40～45単位時間程度
- (近代以降の文章)20単位時間程度

《新学習指導要領》

創造的・論理的
思考

感性・情緒

他者とコミュニケーション

伝統的な言語文化
に関する理解

「思考力・判断力・表現力等」の言葉の働きを捉える三つの側面

論理国語(4単位)

○ 実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目

【知識及び技能】

- ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句
- ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方(理解を深める)
- ・効果的な段落の構造や論の形式
- ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係 ・推論の仕方(理解を深める) など

【思考力・判断力・表現力等】

- 【書くこと】50～60単位時間程度 【読むこと】80～90単位時間程度

文学国語(4単位)

○ 深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目

【知識及び技能】

- ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴
- ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法
- ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用 など

【思考力・判断力・表現力等】

- 【書くこと】30～40単位時間程度 【読むこと】100～110単位時間程度

国語表現(4単位)

○ 実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目

【知識及び技能】

- ・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣い
- ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句
- ・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方 など

【思考力・判断力・表現力等】

- 【話すこと・聞くこと】40～50単位時間程度 【書くこと】90～100単位時間程度

古典探究(4単位)

○ 生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目

【知識及び技能】

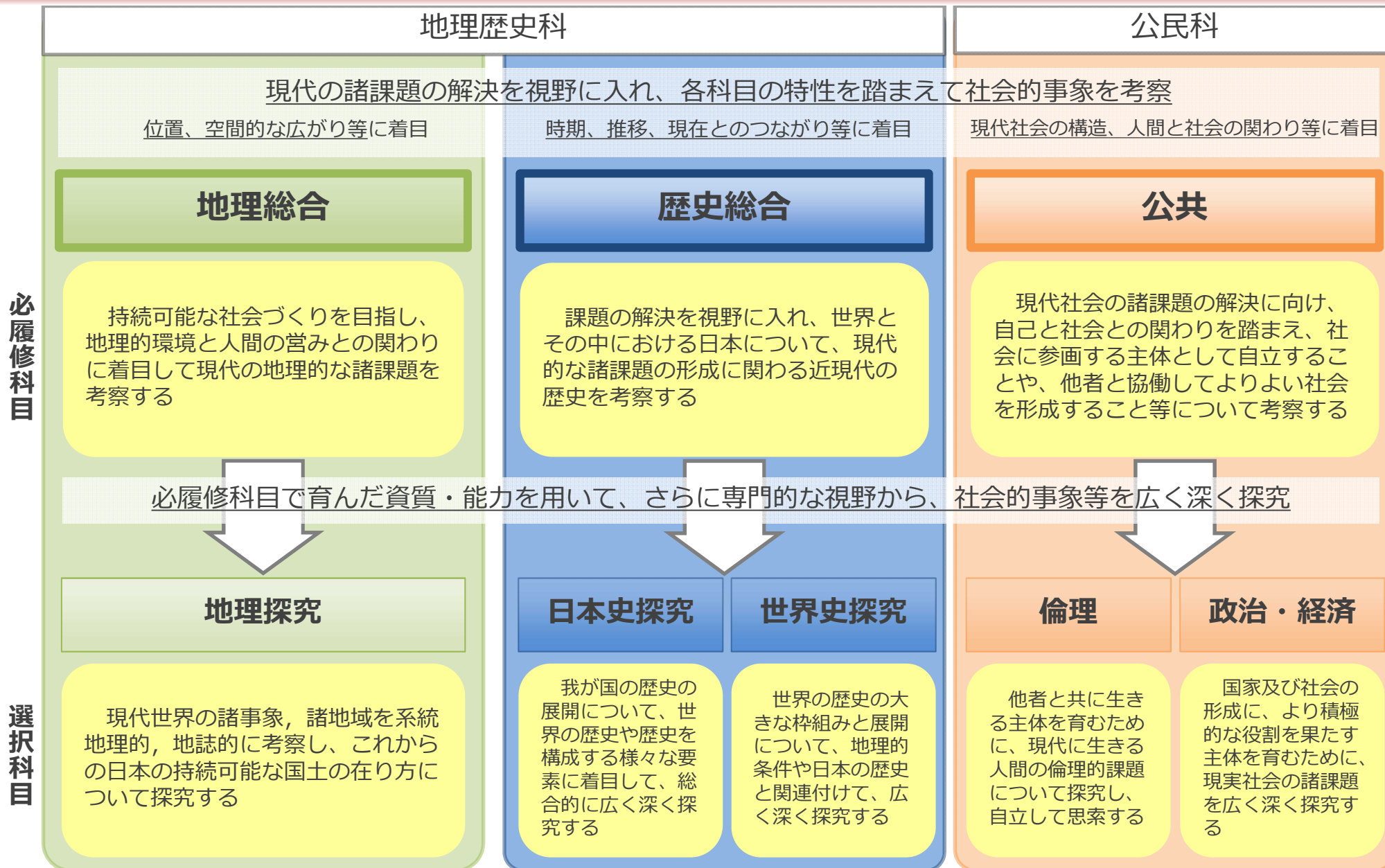
- ・古典を読むために必要な語句
- ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係
- ・古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響 など

【思考力・判断力・表現力等】

- 【読むこと】 ※1領域のため指導時数を示していない。

高等学校学習指導要領「地理歴史」「公民」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために



※ 生徒が歴史を豊かに学べるよう、歴史上の用語を削減する規定は設けない。

地理歴史科の新しい必修科目「地理総合」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

科目の特徴

持続可能な社会づくりを目指し、地理的環境と人間の営みとの関わりに着目して、現代の地理的な諸課題を概観・考察

グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方、ローカルな視座からは防災など、現代の諸課題への対応を考察

ICTにより飛躍的に有用性が向上している地理情報システム（GIS）に関わる地理的技能を習得

「地理総合」の構造 <持続可能な社会づくりに求められる地理科目>

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

GIS

⇒ 現代世界の地域構成を捉える地図の読図を通じ、貿易や交通・通信、観光等に関する国内や国家間の結び付きなどの観点から現代世界を概観

⇒ 地理情報システム(GIS)の有用性に気づき、それらを用いる地理的技能を身に付ける

B 国際理解と国際協力

グローバル

ESD

(1) 生活文化の多様性と国際理解

グローバル化する社会において国際理解を深めるため、世界の多様な生活文化と地理的環境との関わりについて考察する

(2) 地球的課題と国際協力

(1)で学んだ世界の生活文化の多様性を踏まえ、地球規模の諸課題とその解決に向けた各国の取組や国際協力の必要性について考察する

C 持続可能な地域づくりと私たち

防災

(1) 自然環境と防災

我が国をはじめ世界の自然災害や生活圏の自然災害を基に、防災と自然環境との関わりや防災対策について考察する

(2) 生活圏の調査と地域の展望

「地理総合」全体のまとめとして、生徒の日常的な生活圏内から課題を取り上げ、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて、持続可能な地域づくりのための改善・解決策を探究する

地理歴史科の新しい必修科目「歴史総合」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

科目の特徴

近現代の歴史を理解するに当たって、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉える

課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察

歴史の大きな変化に着目し、單元ごとに問いを立て、資料を活用しながら歴史の学び方を習得

A 歴史の扉

【大項目Aの性格】「歴史総合」の導入として、中学校までの学習を振り返りながら、歴史を学ぶ意義や歴史の学び方を学習

- (1) 歴史と私たち
- (2) 歴史の特質と資料

- (1) 自分の生活や身近な地域の歴史が日本や世界の歴史とつながっていることを理解したり、その関連性について考察したりする
- (2) 資料から情報を読み取り、その意味や意義等を考察・表現する

【大項目B~Dの構造】

中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で、(2)(3)で以下の内容を扱い、(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う

【主な内容】

【その内容の取扱い】

B 近代化と私たち

- (1) 近代化への問い
- (2) 結びつく世界と日本の開国
- (3) 国民国家と明治維新
- (4) 近代化と現代的な諸課題

- 18世紀のアジアの経済と社会、アジア諸国と欧米諸国の接触・交流、日本やアジア諸国と欧米諸国の関係の変容 など
- 欧米諸国の市民革命、日本の近代化や国民国家形成の動き、列強の帝国主義政策、アジア諸国とその他の国や地域の動向 など

- 日本の美術などのアジアの文物などが欧米に与えた影響、欧米諸国によるアジアへの勢力拡張競争とアジアの経済・社会の仕組みの変容 など
- 人々の政治的発言権の拡大と近代民主主義の基礎の成立、日本の立憲国家としての国際的地位向上に向けた取組、日本の近代化等がアジア諸民族の独立や近代化の運動に与えた影響、朝鮮半島・中国東北地方への勢力拡張 など

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
- (2) 第一次世界大戦と大衆社会
- (3) 経済危機と第二次世界大戦
- (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

- 第一次世界大戦の展開・性格と惨禍、ソ連の成立とアメリカの台頭、戦後の国際秩序の形成、大衆社会の形成と社会運動の広がり、大正デモクラシーと政党政治 など
- 世界恐慌と国際協調体制の変容、第二次世界大戦の展開・性格と惨禍、戦後世界の形成、日本の国際社会への復帰 など

- 国際連盟の成立や軍縮条約の締結における日本の役割と国際的立場の変化、社会主義思想の広がり等がその後の世界に与えた影響、民主主義的風潮の形成と日本における政党内閣制の展開 など
- 世界恐慌による混乱、日本の政治体制や対外政策の変化、国際秩序の変容、第二次世界大戦の過程での米ソ対立、脱植民地化への萌芽、戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことと平和で民主的な国際社会を実現することの重要性 など

D グローバル化と私たち

- (1) グローバル化への問い
- (2) 冷戦と世界経済
- (3) 世界秩序の変容と日本
- (4) 現代的な諸課題の形成と展望

- 冷戦の展開と国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会 など
- 市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題 など

- アジア・アフリカ諸国による主体的な国家建設、西欧や東南アジアの地域連携や経済成長と冷戦との関わり など
- 民族対立や武装集団によるテロなど地域紛争の多様化、ODAやPKOを通じた日本の国際社会における役割 など

※ 生徒が歴史を豊かに学べるよう、歴史上の用語を削減する規定は設けない。

公民科の新しい必修科目「公共」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

A 公共の扉

社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生きるとともに、他者との協働により当事者として国家・社会などの「公共的な空間」を作る存在であるということ学ぶとともに、そこで自分自身が様々な選択・判断をする際に手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理を理解するようにし、大項目B、Cの学習の基盤を養う

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

大項目Aの学習内容を活用して、現実社会の諸課題に関して設定する主題を多面的・多角的に考察・構想。その際、生徒の学習意欲を高めるよう、主題ごとに具体的な「問い」を立て、生徒の日常の社会生活と関連付けながら具体的な事柄を取り上げて指導する

〔「法」「政治」「経済」などに関わる主題〕

- 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義、
- 政治参加と公正な世論の形成・地方自治、国家主権・領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割、
- 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)

〔メディア・リテラシーの育成〕

主題学習に関連させて、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能、情報の妥当性や信頼性を踏まえた公正な判断力(情報モラル含む)を身に付けるよう指導

大項目Bの学習では、世代間の協力、協働や自助・共助及び公助などによる社会的基盤の強化などに関連付けて学ぶとともに、防災情報の受信・発信など現実の具体的な社会的事象等を扱ったり、模擬的な活動を行ったりする。

C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち(「公共」全体のまとめ)

持続可能な社会づくりに向けた役割を担う主体となることに向けて、地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成という観点から課題を見出し、その解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述するという学習活動を行う。

「公共」の授業で行うことが考えられる学習活動の例

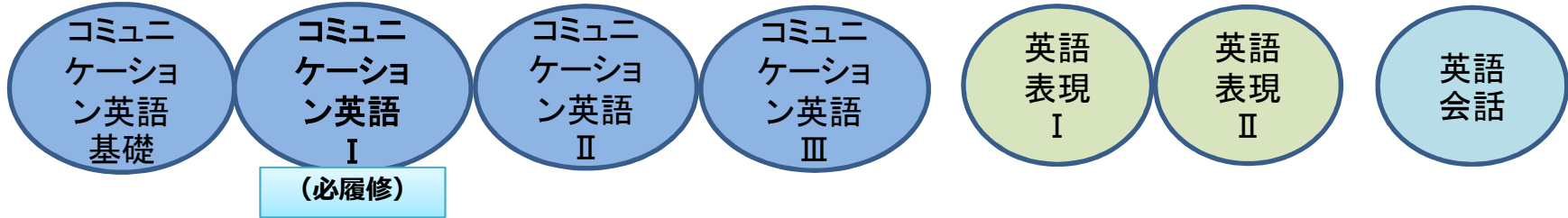
思考実験、討論、ディベート、模擬選挙、模擬裁判、インターンシップの事前・事後の学習など

関係する専門家・機関の例

選挙管理委員会、消費者センター、弁護士、NPO など

高等学校外国語・英語 改訂の概要

現行科目
(外国語)



課題

- ・生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の力に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動(例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動)が十分ではない
- ・学習意欲に課題
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

育成を目指す
資質・能力

- 日常的な話題や社会的な話題について、統合的な外国語を通して、
- (1)言語に対する理解を深め、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付ける。
 - (2)目的や場面、状況などに応じて的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。
 - (3)文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」の力を総合的に育成(必修修科目を含む)



発信力の育成をさらに強化

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」の力を総合的に育成
- ・明確な目標(英語を使って何ができるようになるか)を達成するための構成・内容
- ・複数の力を結び付けた統合的な言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着(高等学校への橋渡し)を含む

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

- ・「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
(総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ、エッセイライティングⅠ・Ⅱ)

Ⅰ→Ⅲへ内容の高度化・話題の多様化

改訂の概要

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探究し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

高等学校 共通教科「家庭」について

目指す資質・能力等	内 容	
<p>○自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭についての理解 ・乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能 ・生涯の生活設計についての理解 ・各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能 	<p>○科目の導入として、「生涯の生活設計」の項目を新たに設け、AからCまでの内容と関連付けるとともに、まとめとしても指導することを明記</p> <p>○現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりできるよう指導することを明記</p> <p>○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることを明記</p>	
<p>○家族・家庭や社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見いだし、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力 	<h2>家庭基礎(2単位)</h2>	<h2>家庭総合(4単位)</h2>
<p>○相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 ・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度 ・自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度 	<p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭に関する法規に触れることを明記 <p>(3) 子供の生活と保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援についての理解 ・乳幼児と関わるための基礎的な技能 <p>(4) 高齢期の生活と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の生活支援に関する基礎的な技能についての内容の充実 <p>(5) 共生社会と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助、共助及び公助の重要性についての理解 <p>B 衣食住の生活の自立と設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造についての理解 <p>(1) 食生活と健康</p> <p>(2) 衣生活と健康</p> <p>(3) 住生活と住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫 <p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計管理についての理解 ・リスクを想定し、不測の事態に備えた対応についての理解 <p>(2) 消費行動と意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解 <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会</p> <p>(3) 子供との関わりと保育・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の遊びと文化についての理解 ・子育て支援についての理解と工夫 ・子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫 <p>(4) 高齢者との関わりと福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能についての内容の充実 <p>(5) 共生社会と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助、共助及び公助の重要性についての理解 <p>B 衣食住の生活の科学と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の衣食住の文化についての理解 ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実 <p>(1) 食生活の科学と文化</p> <p>(2) 衣生活の科学と文化</p> <p>(3) 住生活の科学と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくりの考察、工夫 <p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不測の事態に備えたりリスク管理に関する内容の充実 <p>(2) 消費行動と意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについて理解 ・消費生活に関する演習を取り入れることを明記 <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>

※「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月21日中央教育審議会) <抄>

高等学校情報科の科目構成・内容（概要）

「情報Ⅰ」（共通必修科目）

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

(1) 情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法や情報モラル、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築などについて考察する。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	効果的なコミュニケーションを行うために、情報デザインの考え方や方法に基づいて表現する。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用するとともに、モデル化やシミュレーションを通して問題の適切な解決方法を考える。
(4) 情報通信ネットワークとデータの活用	情報セキュリティを確保し、情報通信ネットワークを活用するとともに、データを適切に収集、整理、分析し、結果を表現する。

全ての生徒が、プログラミング、ネットワーク(情報セキュリティを含む。)やデータベース(データ活用)の基礎等について学ぶ

「情報Ⅱ」（発展的な内容の選択科目）

「情報Ⅰ」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいはコンテンツを創造する力を育む科目

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係を歴史的に捉え、将来の情報技術と情報社会を展望する。
(2) コミュニケーションとコンテンツ	文字、音声、静止画、動画等を組み合わせたコンテンツを、情報デザイン及び社会に発信したときの効果や影響も考慮して制作する。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法により、多様かつ大量のデータを基に、現象をモデル化し、分析し、その結果を読み取り、解釈し表現する。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを開発の効率等に配慮して設計するとともに、情報システムを構成するプログラムを制作する。
(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	情報Ⅰ及び情報Ⅱで身に付けた資質・能力を総合的に活用し、情報と情報技術を活用して問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

(参考) 現行の科目構成

「社会と情報」

情報機器や情報通信ネットワークの適切な活用、情報化が社会に及ぼす影響の理解等を重視

「情報の科学」

情報や情報技術の活用に必要な科学的な考え方、情報社会を支える情報技術の役割の理解等を重視

いずれか1科目を選択必修

現状の課題

「情報の科学」を履修する生徒の割合は約2割(約8割の生徒は、高等学校でプログラミング等を学ばずに卒業する)であるなど、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではない。

生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが重要。

理数科(共通教科)における探究的科目 —「理数探究基礎」、「理数探究」—

1. 背景

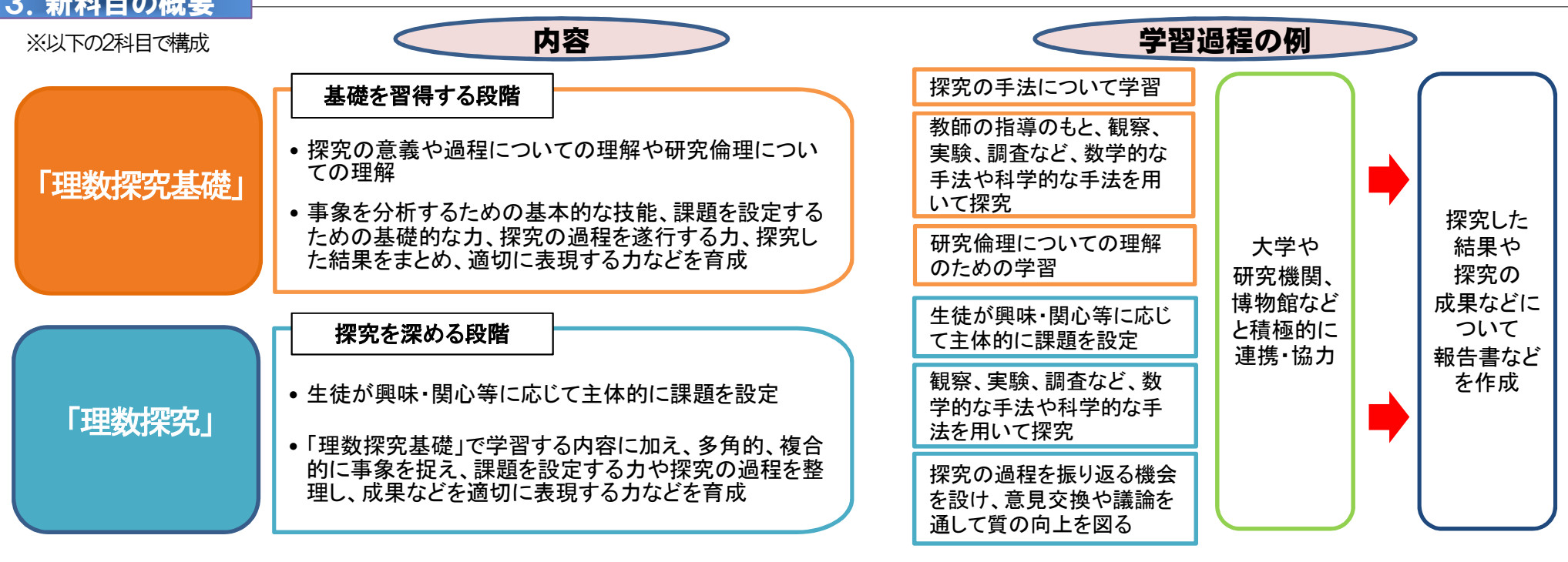
- 中央教育審議会答申において、将来、学術研究を通じた**知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成**を目指し、そのための基礎的な資質・能力を身に付けることができる**数学・理科にわたる新たな探究的科目**の設定が提言されたことを受けて新設。

2. 新科目の基本的な考え方

- 数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、**探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成**。
- 様々な事象や課題に**知的好奇心や主体性**をもって向き合い、**教科・科目の枠にとらわれない多角的、複合的な視点**で事象を捉える力などを養う。
- 粘り強く考え行動し、**課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度**などを養う。

3. 新科目の概要

※以下の2科目で構成



4. 新科目の履修のあり方

- 「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修をもって**総合的な探究の時間の一部又は全部に替えることが可能**。
- 「理数探究基礎」及び「理数探究」は選択履修科目であるが、**理数に関する学科においては、原則として「理数探究」を全ての生徒が必修**。

新学習指導要領における高等学校数学科の改訂について

◆ 改訂の主なポイント

- 理数探究、理数探究基礎の新設に伴い、数学活用を廃止。
- 数学Cを新たに設けて、数学活用の内容を数学A、数学B、数学Cに移行。
- 統計的な内容の充実。〔 数学Ⅰ：「データの分析」に「仮説検定の考え方」を新設、数学A：「場合の数と確率」に「期待値」を新設（数学Bから移行）、数学B：「統計的な推測」に「区間推定及び仮説検定」を新設。〕

《現行学習指導要領》

科目(単位数)	内容
数学Ⅰ(3) (必修)	数と式 図形と計量 2次関数 データの分析 ・四分位数⇒中学2年
数学Ⅱ(4)	いろいろな式 図形と方程式 指数関数・対数関数 三角関数 微分・積分の考え
数学Ⅲ(5)	平面上の曲線と複素数平面 極限 微分法 積分法
数学A(2)	場合の数と確率 整数の性質 図形の性質
数学B(2)	確率分布と統計的な推測 数列 ベクトル
数学活用 (2) (廃止)	数学と人間の活動 社会生活における数理的な考察 ・社会生活と数学 ・数学的な表現の工夫 ・データの分析

内容の系統性と生徒選択の多様性に配慮して科目を構成

《新学習指導要領》

科目(単位数)	内容	科目構成の考え方
数学Ⅰ(3) (必修)	数と式 図形と計量 2次関数 データの分析	・中学校との接続に配慮した内容で構成。 ・この科目だけで高等学校数学の履修を終える生徒、引き続き数学を履修する生徒の双方に配慮し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を養う。
数学Ⅱ(4)	いろいろな式 図形と方程式 指数関数・対数関数 三角関数 微分・積分の考え	・高等学校数学の根幹をなす内容(数学Ⅰの内容を発展・拡充させることができるようにするとともに、数学Ⅲへの系統性を踏まえた内容)で構成。 ・より多くの生徒の数学的に考える資質・能力を養う。
数学Ⅲ(3)	極限 微分法 積分法	・微分法、積分法の基礎的な内容で構成。 ・数学に強い興味や関心をもってさらに深く学ぼうとする生徒や将来数学が必要な専門分野に進もうとする生徒の数学的に考える力を伸ばす。
数学A(2)	図形の性質 場合の数と確率 数学と人間の活動	・数学Ⅰの内容を補完。 ・数学のよさを認識し、数学的に考える資質・能力を養う。
数学B(2)	数列 統計的な推測 数学と社会生活	・数学の知識や技能などを活用して問題解決や意思決定をすることなどを通して数学的に考える資質・能力を養う。
数学C(2) (新設)	ベクトル 平面上の曲線と複素数平面 数学的な表現の工夫	・数学的な表現の工夫を通して数学的に考える資質・能力を養う。
理数探究・理数探究基礎(新設) ※高等学校理数科として位置づけられる		

◆ 科目の履修順序

- 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲは、この順に履修させることを原則とする。
- 数学Aは、数学Ⅰと並行して、あるいは数学Ⅰを履修した後に履修させることを原則とする。
- 数学B、数学Cは、数学Ⅰを履修した後に履修させることが原則とする。(数学Bと数学Cは履修の順序で構成されるものではなく、内容のまとまりで構成。このため、数学Bと数学Cを並行して履修することや数学Bを履修せずに数学Cを履修することなども可能。)